

2月10日は英語で左を意味する「レ(0)フ(2)ト(10)」と読めることから、左利きの日(諸外国では8月13日)というのを皆さんはご存知でしょうか？

これは右利き用でないどちらの利き手でも安全に使用できる道具を製造者に呼び掛けるというもの。日本では8月13日がお盆と重なり、イベントを行いにくいことから2月10日とされています。

芸術家肌が多い左利き

左利きの人は全人口の1割程度と言われており、歴史上芸術家肌の偉人にはその傾向が多かったとか。

左利きとされる歴史上の偉人

- ミケランジェロ ● モーツァルト ● ピカソ ● チャップリン ● バッハ
- レオナルド・ダ・ビンチ(両利き説もあります) ● エッシャー
- エリザベス女王 ● オバマ元アメリカ大統領 ● ビル・ゲイツ …など



日本人でも夏目漱石や正岡子規といった文豪は左利きとされていますが、武士ではほぼ皆無といいほど見当たりません(例外として松永久秀がいます)。これは刀を使うにあたり右利きに矯正させられるためで、左利きのままでいると、すれ違う時にさや同士が当たったり、抜刀すると仲間に当たる危険があったためです。

つまり左利きであることが命を左右する時代であったことが分かります。

左利き用の道具が少ないのが泣き所…

現代の生活する上でのデメリットとしては左利き向けに作られている道具が少ないところ。

中には左利き向け、両利き対応のものも存在していますが圧倒的に少数派。

当人が意識していなくても右利き用の道具を使い続けることで小さなストレスを積み重ねていることになるといわれています。

また、自動車を運転する上で気をつけたい交通事故でも、左利きのドライバーの方が右利きより1.9倍も事故を起こしやすいというデータが発表されています。

無理な右利きへの矯正には悪影響も

こうしたデメリットもありかつては子どもが小さうちに左利きを矯正することが推奨される風潮がありました。最近では利き手の矯正を行うことで精神的に大きな負担が生じ、吃音が残ってしまうなどのデメリットが逆に指摘されるようになりました。

こうしたことから現在では利き手には左右されずだらかに育てることの方が大切であるというようになっています。

